

第 20 回味彩コンテスト記念事業

コンテスト（一般の部・高校生の部）及び食育シンポジウムを開催

一般家庭の食生活の改善や健康増進に役立てることを目的に、バランスの良い健康に役立つ献立を公募する「味彩コンテスト」は今年で 20 回を数えます。

これを記念して 8 月 31 日（金）に、コンテストではこれまでの一般の部に加えて、新たに「高校生の部」を設け実施すると共に、「食育シンポジウム」を開催し、特に次世代への食文化の伝承について講演、パネルディスカッションを行いました。

また、その後に、埼玉県の広畑義久副知事やさいたま市の清水勇人市長、全国栄養士養成施設協会の木村義雄会長、後援・協賛団体の皆様をお招きした「祝賀会」を開催し、この中でコンテストの表彰や永年にわたり、コンテストの向上・充実にご尽力いただいた方々に感謝状が贈られました。

味彩コンテスト(一般の部、高校生の部)

8 月 31 日の午前に国際学院埼玉短期大学を会場に、一般の部・高校生の部の二次審査会（調理審査）を行い、一次審査を通過した一般の部 17 人（応募者 211 人）、高校生の部 14 人（応募者 181 人）がそれぞれのレシピに基づき調理の腕を振るいました。

《調理・審査の様子》



真剣に調理する出場者



調理の様子を審査する河村審査委員長



手際よく調理する高校生の出場者

審査の課題は、埼玉県産の黒豚、野菜のいずれかを使用した「素材の味と彩りをいかした高校生のバランス弁当」



試食審査風景

食育シンポジウム

また、午後 2 時から、会場をパレスホテル大宮に移し、シンポジウムを開催しました。シンポジウムは、大野誠理事長・学院長からの味彩コンテストを創設した趣旨や食育及び地産地消の大切さに触れた挨拶に始まり、大野博之学長の開会の辞へと続き、本学の内野澄子名誉教授が座長となり、3つの講演が行われました。味彩コンテストの審査委員長で東京家政大学大学院の河村フジ子名誉教授は、「食育で体も心も健やかに生きる」をテーマに基調講演を行い、続いて、実践女子大学の藤澤良知名誉教授からは「期待される食育を目指して」、女子栄養大学の足立己幸名誉教授から「『食育の環』を伝えたい—新生『食育ガイド』を活かして—」と題して特別講演が行われました。

また、その後、昭和女子大学の比護和子特任教授が座長となり、上記3名の講師がパネリストとなったパネルディスカッションを行い、来場者との活発なディスカッションが行われ、食育の推進についての議論を深めました。

《シンポジウムの様子》



開会のあいさつ
大野 誠理事長・学院長



開会の辞
大野博之学長



シンポジウム会場



講演の座長
内野澄子 本学名誉教授



基調講演
河村フジ子 東京家政大学大学院名誉教授



特別講演
藤澤良知 実践女子大学名誉教授



特別講演
足立己幸 女子栄養大学名誉教授



パネルディスカッション座長
比護和子 昭和女子大学特任教授



パネリスト
右から河村先生、藤澤先生、足立先生



パネリストに質問する来場者

祝賀会

《祝賀会の様子》



埼玉県知事賞（高校生の部）を授与する広畑副知事



表彰式を終えて来賓・審査委員・コンテスト出場者が記念撮影



全国栄養士養成施設協会
木村義雄会長のご挨拶（乾杯）



埼玉県 広畑義久副知事のご挨拶



さいたま市 清水勇人市長のご挨拶



コンテスト最多受賞表彰（10回受賞）
宇田和子さん（右）

第20回味彩コンテスト記念事業の実施にあたり、多大なご支援・
ご協力を賜りました関係の皆様方に心から感謝申し上げます。